

はじめに

総力を結集して 「小さな国際文化都市」 ～市民が創る誇りあるまち～ を 実現しよう！



平成 17 年 9 月に仙北市が誕生してから、昨年 9 月で 10 周年となりました。新市誕生以降、「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市をめざして」を将来像に掲げ、恵まれた資源を活かそうと、「交流」をキーワードにまちづくりに取り組んだ 10 年間でした。しかし未曾有の自然災害や世界経済の減速、私たち自身の課題解決力の不足などで、当初の目標を達成できていない現状があります。

これまでの手法では、国も自治体も現状の手詰まり感を打破できません。既存概念を飛び越え、国際的な視野に立ち、全く新たな発想で地域産業の振興や人口減少対策、各コミュニティ単位で地域社会の再形成が必要で、これが地方創生の本質です。そこで、平成 28 年度から平成 37 年度までを計画期間とする第 2 次総合計画は、市の将来像を「健やかに美しく輝くまち」を理念に、「小さな国際文化都市～市民が創る誇りあるまち～」と決めました。

本計画の策定にあたっては、市民アンケートなどで市民ニーズを確認し、仙北市総合戦略と整合を図った上で、その基本目標を、産業振興・生活安全・健康福祉医療・環境土地利用・教育文化・移住定住・地方創生・住民参画と交流の各 8 分野を支柱とし、より具体的な施策の展開を図ることとしました。前例にない深く踏み込んだ成果目標を掲げ、事業実施後の検証と評価、そして改善を繰り返す実効性の高いものと自負しています。さらに、産業分野の代表や有識者をメンバーに迎えた「総合政策審議会」を新たに設置し、総合計画、総合戦略等の事業の進捗や効果などを客観的に検証いただくことにしています。

人口減少が加速する中、今後は一層の行財政改革を進めることが求められています。この難題に果敢に挑戦し、それぞれの地域の発展と市民の一体感の醸成を図り、市民の皆様と手を携えながら、本計画に描いた将来像の実現に向けたまちづくりを進める決意です。地方創生は総力戦です。どうか市民の皆様のご協力をお願いします。また市民アンケートにお答えいただいた方々、地域審議会委員をはじめ貴重なご意見をいただいた皆様に、衷心より感謝を申し上げます。

平成 28 年 3 月

仙北市長 門脇 光浩